

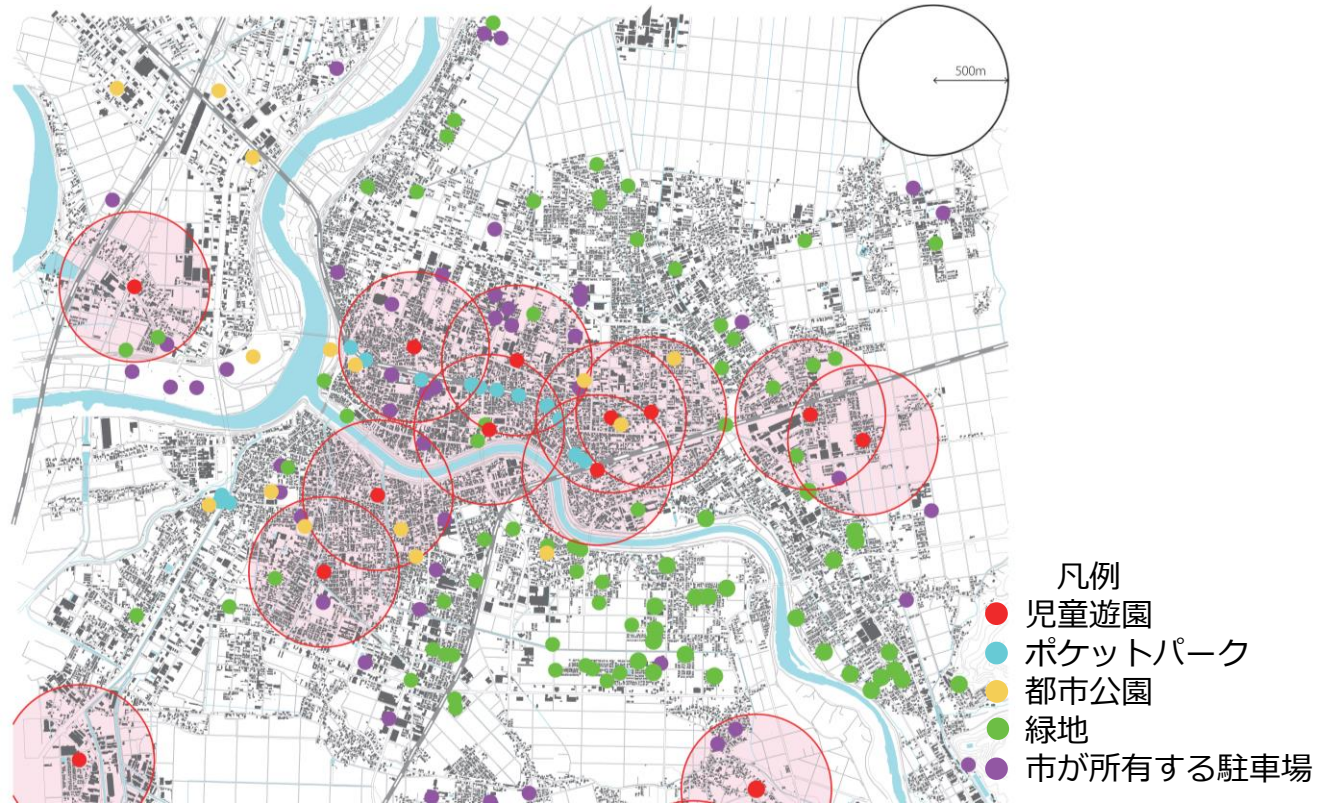
新潟大学連携事業での活用 ～緑地・児童遊園の再検討～



新潟県三条市建設課計画整備係

1.背景

市内児童遊園の現状



- 市内には緑地128カ所、児童遊園31箇所を整備されているが、老朽化が進行
 - 改修・更新を行う必要があるが、管理者不足、財源不足等により難しい状況
- ▶ 今後の緑地・児童遊園のあり方について再検討する必要がある

2.検討開始

新潟大学と連携し検討開始

- 平成18年以降、工学部建設学科と連携を強化し様々な取組みを実施
- 令和4年度の連携事業では、児童遊園のあり方をテーマに再検討を行う



2022.8.5現地合同視察の様子

3.連携事業の概要

児童遊園統廃合及び、遊具の種類について

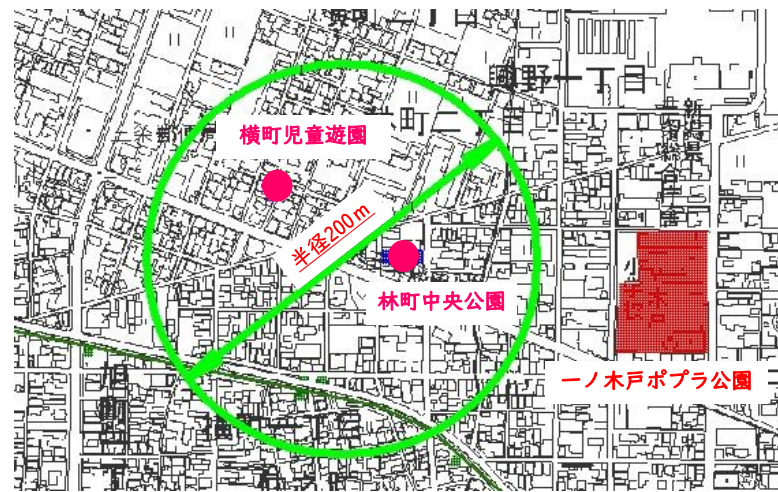
○近接している類似施設の例



条南あおば公園
(都市公園)



桜木町児童遊園



横町児童遊園



林町中央公園



一ノ木戸ポプラ公園
(都市公園)

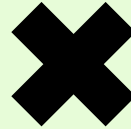
- 需要に対して十分に緑地が整備されているエリアについては統廃合を検討
- 利用実態に合わせて存続か、維持管理費用のかからない形態にシフトするか選択

4.可視化データの作成

公共緑地・年齢別地域ごとの人口を可視化

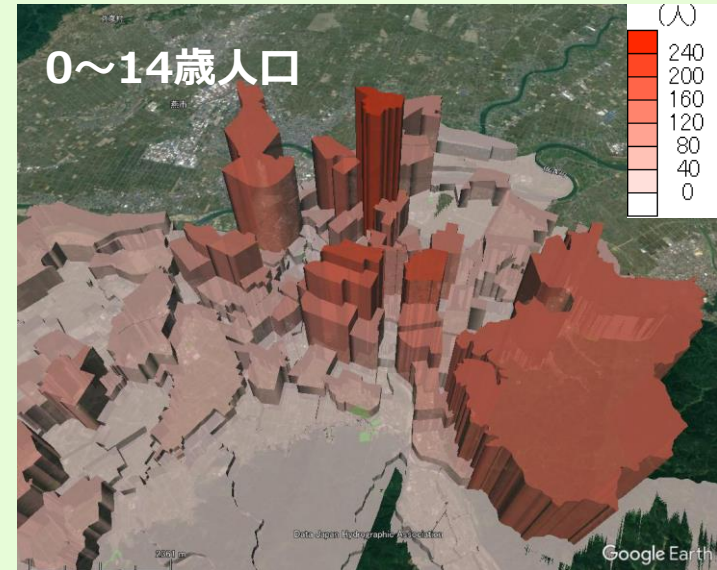
【公共緑地】

市所有の独自データ



【地域別年齢別人口】

2020年国勢調査（e-Stat）



可視化を行った年齢層

0～14歳：現在、児童遊園の利用者が最も多い地域

20～29歳：若い世帯が多く、利用者の増加が見込まれる地域

60歳以上：高齢化が進行しており、高齢者向けの公園が必要な地域

▶ 地域ごとの緑地数と年齢別人口が一目で分かるように！！

5. 打ち合わせで活用

2022.11.15 新潟大学打ち合わせ



- 市職員が可視化研修を受講中で、様々な可視化工具が利用可能であることを説明
- 大学院生が操作を体験



打ち合わせの様子

地域ごとの年齢層や、公園数の把握が簡単
直感的に分かりやすい

成果をまとめる際に、**もっと活用できそう**
他の研究でも利用したい



市所有のshapeデータを数種類提供予定
大学院生をメインに本連携事業のデータ整理やその他研究に活用検討中

6. 今後について

【新潟大学連携事業】

- 可視化ツールを活用し、最終報告資料を作成中
- 他の研究での活用を検討中

【課内での活用】

- インターンシップ対応や住民説明等、積極的に活用したい
- 都市マス・立適の更新で、活用機会が出てくる？

【活用の課題】

- 本研修が終了すると3Dマウスを返却するため、購入する必要有
- 既存の可視化データ活用は誰でも簡単にできるが、可視化データを作成できる職員が限られてしまう可能性がある

三条市

Snow Peak Headquarters
(<https://sbs.snowpeak.co.jp/headquarters/>)

豊かな自然に恵まれた 歴史と文化の息づく 創意にみちた
ものづくりのまち

CAPTAIN STAG 八木ヶ鼻オートキャンプ場
(<https://yagihana.com/>)

IRC五十嵐川ラフティング
<https://ja-jp.facebook.com/ikarashigawa/>